



第13回技術シンポジウム

道路の未来 ～想像から創造へ～

日時：2021年10月19日(火)13:00～17:30 (開場 12:15)

場所：アクロス福岡 B2F イベントホール (福岡市中央区天神 1-1-1)

講演プログラム

13:00～13:05 開会挨拶

13:05～14:15

『ニューノーマル時代の国土イノベーションとスマートウェイ』

講演者 牧野 浩志 氏 ((一財) 国土技術研究センター研究主幹)

14:15～14:30 休憩

14:30～15:30

『情報技術の現状と展望 ～移動体検知技術と個人情報保護～』

講演者 西田 純二 氏 (株式会社 社会システム総合研究所 代表取締役)

15:30～16:30

『“限定的な運転支援” からいつか “自動運転” へ -- その遥かなる道程』

講演者 両角 岳彦 氏 (自動車評論家)

16:30～16:45 休憩

16:45～17:05

『進化2025 (中期経営計画2025) の紹介』

講演者 山本 悟司 氏 (NEXCO 西日本 経営企画本部 副本部長)

17:05～17:25 学生発表

17:25～17:30 閉会挨拶

開催方法

会場での開催に加え、動画配信も実施いたします。

会場開催 事前申し込みが必要です (定員 150 名先着順)

HP の「シンポジウム参加申し込み」からお申し込みください。

【締切：10月6日(水)】

※事前申し込みのない方の当日参加はお断りいたします。

※土木学会認定 CPD プログラム (認定番号 JSCE21-0906・単位数 3.7 単位)

※新型コロナウイルスの感染防止対策を実施します。

(入場時の検温と手指消毒の実施・ご来場時のマスク着用

・ソーシャルディスタンス確保のため、座席の間隔を確保)

動画配信 事前申し込みが必要です

Live 配信とオンデマンド配信の URL を事前申し込みいただいた方にお知らせします。

※動画視聴による CPD 認定をご希望される方は所定の手続きが必要です。

申し込み

HP はこちらからご覧ください。

※その他注意事項等詳細も合わせてご確認ください。

<https://www.kyushu-u-nexco.jp/index.html>



以下の場合には、シンポジウムの開催を中止し、動画配信のみ行います。

- ・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言及び、まん延防止等重点措置が発令された場合
- ・講師等に感染するなど、主催者が中止すべきと判断した場合



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



主催：九州大学 共催：西日本高速道路(株)

後援：国土交通省九州地方整備局、(公社)土木学会西部支部、(公社)地盤工学会九州支部、

(一社)九州橋梁・構造工学研究会、(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部、

(一社)日本建設業連合会九州支部、(一社)九州地域づくり協会

お問合せ先：西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社 h.sengoku.a@w-e-kyushu.co.jp (仙石) h.kikuchi.a@w-e-kyushu.co.jp (菊池)

ICT, AI など先進的な情報技術が、これまで以上のスピードで進展しており、社会は、DXの推進に向けて大きく舵取りがなされています。一方で自然災害の激甚化・頻発化、さらには、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、我々がこれまでに経験したことがないような事象が発生しています。このような社会環境の変化の中で重要な社会基盤の1つである高速道路の将来はといったどのように変わっていくのでしょうか。

本シンポジウムでは、将来を見据えた先進的な道路政策とその展望についてご紹介いただきます。また、現在のICTなどの情報技術を応用した自動運転支援システムや移動体検知システムの技術について、そのあり方や可能性をご講演いただき、これからの道路の未来について将来の道路をどのように創造するべきか、みなさまと一緒に考えていきたいと思っております。

講演者略歴



まきの ひろし
牧野 浩志 氏

博士(工学)、(一財)国土技術研究センター研究主幹(道路、都市、住宅、地域政策担当)

1967年大分県出身。1991年、九州大学大学院土木工学専攻を修了後、建設省に入省。2002年、米国FHWA道路研究所客員研究員として「高度道路交通システム(ITS)日米共同研究」を推進。国総研ITS研究室主任研究官時代、地元企業と連携して基山PAで「九州バス乗り継ぎシステム社会実験」の企画や「ETC2.0研究開発」に従事。道路局企画課企画専門官や長崎河川国道事務所長を経て、2009年には東京大学准教授に就任。先進モビリティ政策を研究し、「長崎EV&ITSプロジェクト」や「ITS柏スマートシティ」のWG長として活躍。その後、中日本高速道路(株)経営企画担当部長を経験し、2014年から国総研ITS研究室長として「路車協調ITS」の研究開発をリード。北陸地方整備局建政部長、道路局道路技術分析官を経て2021年7月より現職。道路、都市、住宅、地域政策のシンクタンクとして活躍中。著書に「路車協調でつくるスマートウェイ(第40回交通図書賞受賞)」などがある。



にしだ じゅんじ
西田 純二 氏

株式会社 社会システム総合研究所 代表取締役

1957年大阪府出身、1980年京都大学工学部交通土木工学科卒業。都市計画・交通計画のコンサルタント、外資系コンピュータ会社(DEC)でのソフトウェアエンジニアを経て1988年に阪急電鉄に入社。都市開発、交通計画、新規事業開発を担当。2004年に阪急電鉄を退職、(株)社会システム総合研究所を設立し代表取締役に就任、現在に至る。同社において交通ICカードの開発、カーブロープ情報を用いた交通流動解析、バスナビゲーションシステム、IoTセンサによる移動体検知などの実用化を進める。2012年より京都大学経営管理大学院経営研究センター特命教授。



もろずみ たけひこ
両角 岳彦 氏

自動車評論家

1978年 三栄書房 入社「モーターファン」編集部配属。1983年5月独立して、自動車そして科学技術全般に関わる取材・評論等の活動を開始、現在に至る。大学・大学院の専攻は「タイヤの力学と車両運動」 勉強しない学生でしたが、今に至るまでこれが全ての基礎になっています。当時の「操縦性・安定性」の試験・計測に始まり、自動車を「味見」して、その中で起こる事象を体感→言語化→考える…が、専門分野かつ好きなこと。もの書き以外にも、いろいろやってきました。サプライヤーや大学と個別技術やクルマ=ヒトの関係を現地評価しつつ研究開発、自動車文化の重要な一部分であるモータースポーツの現場へもずっと…。今は日本のトップカテゴリー「スーパーフォーミュラ」でコアな解説などしています。1998-99年には「チーム郷」の立ち上げに参画して「ル・マン 24時間レース」参戦。その後ディーゼルエンジン使用過程車向け排気浄化システムの開発まともも… 最近では道路・交通分野と車両運動・運転を連携させるお手伝いもしています。



やまもと さとし
山本 悟司 氏

西日本高速道路株式会社 執行役員・経営企画本部 副本部長

1989年 建設省(当時)に入省し、土木研究所に配属。その後、国土交通省関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長、九州地方整備局福岡国道事務所長、大臣官房技術調査課環境安全・地理空間情報技術調整官、道路局企画課道路経済調査室長、京都府建設交通部長などを歴任。関東地方整備局道路部長を経て、2020年6月より現職。経営企画本部において、計画調整や情報システムを担当している。長野県出身。

